

中井だより

中井やまゆり園

当事者目線の障害福祉の実践

園長 菅野 大史

中井やまゆり園では、本年度の運営方針を「施設は地域の中で生活する準備をする場であり、一生過ごす場ではないことを前提に、利用者一人ひとりの生活をあらためて見直し、地域での豊かな生活実現を目指します。」としました。

この方針は、利用者さん一人ひとりの「障害特性」に着目しすぎていたが故に、必要以上に「刺激遮断」したり、利用者さんとのコミュニケーションが足りない現状を見直し、利用者さんの「ひととなり」を、担当職員がしっかりと理解し語れるようになった上で、園内だけで完結している現在の生活から、積極的に地域で活躍しようという主旨であることを、ご理解いただければと思います。

園では、この方針を立てた上で、当事者目線の障害福祉を実践するための様々な取組みを進めていますが、この取組みの大きな柱である「寮の再編」「日中活動体制の充実」を6月1日に開始しましたので、その概要を報告いたします。

<寮の再編>

「寮の再編」は、「1人で利用者を見守る時間が長く、困った時に相談相手がない」「職員間のコミュニケーションが不足している」などの寮運営の課題に対して行ったもので、具体的には、海寮と山寮の2寮4ホーム体制を、1寮3ホーム体制に再編成しました。

このことで、これまでは常時1人体制だった職員配置を2人体制にすることが可能となり、職員が互いの支援を確認できるようになったことで、支援技術の向上と不適切な支援の未然防止を図れるようになるなど、当事者目線の障害福祉を進めているところです。

<日中活動体制の充実>

これまで、コロナの影響もありましたが、すべての利用者の1日の生活が施設(寮)内で完結している状況にありました。そこで、これまでの寮別の活動体制を、「受注活動グループ」「講堂グループ」「個別対応グループ」に再編し、利用者全員が寮の外で活動する体制を整えることで、園内の日中活動の充実を図りました。

また、4月に配置された「支援改善アドバイザー」の助言と、「地域共生コーディネーター」を活用しながら、外部事業所での活動を促進し、現在、5か所の事業所に6名の利用者が(体験)利用をしています。さらに今後は、近隣地区の公園整備の作業も実施する予定であるなど、地域での活動を推進することとしています。

このように、日中活動体制を充実させ、利用者の様々な可能性を引き出すことでも、当事者目線の障害福祉を進めてまいります。